

令和 4 年 5 月 17 日現在

機関番号：22604

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K18546

研究課題名（和文）政治空間としての議事堂の総合的研究

研究課題名（英文）Parliament Architecture as Political Space

研究代表者

佐藤 信（Sato, Shin）

東京都立大学・法学政治学研究科・准教授

研究者番号：70761419

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、政治史を中心に、建築史・都市史を統合した学際的アプローチを採用することで、議会政治の中核をなす議事堂を政治空間として捉え直した。空間と政治を一体として分析する「政治＝空間」という概念を提起して枠組の刷新を図ったうえで、帝国議会開設前の地方民会の空間から仮議事堂を経て本議事堂に至るまでの「公議」空間の形成と変容を明らかにすることで政治空間としての議事堂研究の重要性を明らかにすると同時に、国際的な研究動向を整理・紹介することで今後の議事堂研究の可能性も論じた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人文社会科学諸分野で空間論的転回が論じられ、日本近代史でも政治的空間の研究が蓄積されているが、政治的空間への適切な分析枠組みは用意されてこなかった。対して本研究は関連領域の枠組みを整理しながら「政治＝空間」という新たな枠組みを提示した。この視角に基づき、コロナ禍における空間変容についての論考を刊行するなど社会への還元も行った。

また、政治空間としての国会議事堂の歴史的研究を通じて、公議の「かたち」の歴史的形成過程や建築様式の持つ政治的象徴性の重要性を明らかにした。本研究は萌芽的とはいえ、今後の議事堂構想の前提をも提供するほか、新たに開拓しうる沃土を示すことで政治や空間の理解の刷新を用意した。

研究成果の概要（英文）：This interdisciplinary research revisited parliamentary architecture as a politically constructed space. First, I introduced the new framework of "politics=space" to analyze politics and space as one. Second, this study revealed that the habitus of assembly and discussion, which provided the base of parliament, was historically constructed in Japan, and Japan's Diet Building itself has been a political construct that reflects the government's attitude toward democracy and national pride. Third, my literature review showed four trends of study on parliamentary space and the future vision of the field.

研究分野：日本政治外交史

キーワード：議事堂 政治史 建築史 都市史 デモ

1. 研究開始当初の背景

これまで日本の国会議事堂については建築史家らによってその建築についての研究は蓄積されてきたが、その極めて政治的な空間を成立・運営させる政治的メカニズムについては殆んど分析がなされてこなかった。本研究は政治的空間として議事堂を再定位することで、議事堂への知見を深化させるとともに、議事堂という空間表象を通してより実態的に「公議」のイメージを把握することを目指した。

2. 研究の目的

本研究は、政治史を中心に、建築史・都市史を統合した学際的アプローチを採用し、議会政治の中核をなす議事堂、すなわち議場及び関連する政党・議員控室、事務局を含む政治空間の、意匠や配室を介した政治の動態との連関の様態を、他の議事堂との比較を通じて解明するものである。議事堂の歴史の変遷と運営をめぐる政治的メカニズムを解明することで、「空間と政治」という萌芽的新領域を構造的に解明し、日記・書簡・書類など文書史料の分析に特化した近現代史研究に新たな視点を提供すると同時に、日本の国会議事堂を含め近い将来に想定される各国中央・地方での議事堂新築論議へのベースを提供することをも目指した。

具体的に、本研究において解明を目指した目的は次の三点であった。

- ①議事堂建築の歴史の変遷における政治的意味
- ②「空間と政治」の動態
- ③将来の議事堂への展望

3. 研究の方法

参照された海外の議事堂に関わる海外資料を含む広汎な史料収集を行ったうえで、史的アプローチによる分析を行う。

同時に、政治と空間を一体に扱う分析枠組みを立ち上げ、世界各地で多様に行われている議事堂研究の状況を文献収集はもちろん、研究者とのネットワーク構築を通じて把握する。

4. 研究成果

COVID-19 のパンデミックによって（助成期間を一年延長してもなお）海外での資料調査の一部は実施できなくなり、日本の国会議事堂を分析する一般書の公刊は助成期間中には実現しなかった。

しかし、以下の事柄については示し、一部は公刊することができたし、これらを国際的に発表することもできた。

(1) 新たな分析枠組の提示—「政治＝空間」

人文社会科学諸分野で空間論的転回が論じられ、日本近代史でも政治的空間の研究が蓄積されているが、政治的空間への適切な分析枠組みは用意されてこなかった。対して本研究は関連領域の枠組みを整理しながら「政治＝空間」という新たな枠組みを提示した（『近代日本の統治と空間』東京大学出版会、2020年）。

(2) コロナ禍の政治＝空間の分析

COVID-19 のパンデミックは選挙や会議など政治にまつわる空間も大きく変容させた。本研究は本来歴史的なものであったが、この歴史の画期に際して社会に知見を還流するべく、三密における政治空間変容についての論考を刊行した（「密と政治」『UP』577号、2020年）。端的に言って密が「政治的なもの」の中核をなしており、感染対策の緩和とともに政治空間も旧に復するという観察であったが、幸か不幸かその政治＝空間観察の正しさはすでに証明されつつある。

(3) 議事堂建築の歴史の変遷

本研究は当初国会議事堂を中心に計画されていたが、その仮議事堂時代の可塑性もさることながら、幕末維新期にはその概念自体が理解されなかった「議会」が国会開設時点では一定のあたりをみていたことの重要性に気付かされた。このことから、国会開設前の地方民会の開催場所や様態を調査し、とりわけ明治10年代に国政の議事機関と地方の議事機関が互いに影響し合い

ながら議場や議事規則を定型化してゆく過程を明らかにした（「公議空間の形成」日本政治学会2019年度研究大会）。

さらに仮議事堂時代に本議事堂が構想され、実現される過程については、その象徴性について、国家を代表する建築物と考えられていたからこそ諸勢力の対抗の場となったことを明らかにした（「国威と民主——大蔵省主管期の議事堂建築様式をめぐる象徴の相克」『法学会雑誌』61巻2号）。そこでは議事堂である以上「民主」のイメージが求められる一方、「国威」も求められたのである。そこで問題となったのは「国威」をどのように表現するかであり、これが建築史上の日本様式論争となった。ただ政治史の観点から重要なのは、ここで「国威」の表現について大正デモクラシーの気風のなかで「民主」的な選択の必要性がしばしば鼓吹されたことである。この論考では日本の帝国議会議事堂を超えて、この建築コンペを「民主」と関連付けてみる見方が当時のデモクラシー観といかに照応しており、それが国際連盟コンペへの参加を巡っても表現されたことまで追跡した。

(4) 議事堂研究の現在と展望

研究期間の後半には COVID-19 のパンデミックによって海外資料調査は困難になったが、これを奇禍としてオンライン化した国際学会や国際研究会に参加することで、議事堂研究の現状把握に努めた。すでに文献調査から明らかにしていた内容と併せて、議事堂研究を①議事堂比較、②制度と空間配置、③象徴と意匠、④儀式と儀礼に腑分けして紹介した（「議事堂研究の潮流」『法学会雑誌』62巻2号）。これまで日本国内で紹介されてきたのは物理的な議事堂建物を対象とする議事堂比較が中心であったが、その他の要素が発見されている以上、今後は議事堂建物外一周辺の統治機構との空間的關係（②）、他アクターからの観察（③）、デモを含む関連アクターの行動様式（④）一の研究が重要になってくることを示した。上記「国威と民主」ですでに一部を公刊している通り、本研究の途中からはこうした要素を取り込んだ研究を行っており、遠からずその全体像を提示できる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 佐藤信	4. 巻 49(11)
2. 論文標題 密と政治	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤信	4. 巻 61(2)
2. 論文標題 国威と民主 大蔵省主管期の議事堂建築様式をめぐる象徴の相克	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法学会雑誌	6. 最初と最後の頁 125-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤信	4. 巻 329
2. 論文標題 日本の首相にも公的別荘を？	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journalism	6. 最初と最後の頁 106-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤信	4. 巻 62(2)
2. 論文標題 議事堂研究の諸潮流	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法学会雑誌	6. 最初と最後の頁 255-274
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 佐藤信
2. 発表標題 近現代日本の統治と空間
3. 学会等名 東京都立大学政治学総合演習（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤信
2. 発表標題 政治空間としての議事堂の来歴と展望
3. 学会等名 東京都立大学政治学総合演習（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤信
2. 発表標題 公議空間の形成 国会運営の前駆としての地方議会
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤信
2. 発表標題 大正デモクラシーと天皇
3. 学会等名 Das Erbe der Meiji-Restoration（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin SATO
2. 発表標題 Space & Politics in Modern japan
3. 学会等名 Invited Seminar @KTH, Sweden (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤信
2. 発表標題 一票の投げ所 大正デモクラシーにおける投票論
3. 学会等名 日本政治学会@法政大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤信
2. 発表標題 政治空間としての議事堂の来歴と展望
3. 学会等名 東京都立大学政治学総合演習 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shin Sato
2. 発表標題 Political Construction of Parliamentary Architecture: Japan 's Diet Building as "Politics=Space"
3. 学会等名 International Convention of Asian Scholars 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shin Sato
2. 発表標題 Governance and Space in Modern Japan: "Politics=Space" in the case of political elites in modern Japan
3. 学会等名 Institute for Transnational and Spatial History, University of St Andrews (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shin Sato
2. 発表標題 Governance and Space in Modern Japan: "Politics=Space" in the case of political elites in modern Japan
3. 学会等名 Center for East Asian Studies, Jawaharlal Nehru University (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 佐藤 信	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 576
3. 書名 近代日本の統治と空間	

1. 著者名 御厨 貴	4. 発行年 2018年
2. 出版社 千倉書房	5. 総ページ数 360
3. 書名 天皇の近代	

1. 著者名 御厨 貴	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 328
3. 書名 オーラル・ヒストリーに何ができるか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------